MAINICHI
毎日新聞
12月8日(日)
2013年(平成25年)
発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

愛されて60年
日本製です

HARUTA SHOES
www.haruta-shoes.co.jp

NEWSLINE

質問なるほドリ
舌がんの症状は 2
J1、広島 逆転でV 6・22
真央 GPファイナル連覇 21
サッカーW杯組み合わせ 23
やなせさん平和への遺言 31
おんなのしんぶん 8
本日は1ページ。「毎日かあさん」「西原理恵子のおかん飯」

社説は5面　劣化した国会　マンデラ氏逝く

みんなの広場 5
今週の本棚 9～11
歌壇・俳壇 13
週間TV 14・19
スポーツ 20～23
小説 24
碁・将棋 26・27
地域 27・28

あすの朝刊休みます

きょう8日(日)は新聞製作を休み、9日(月)の朝刊は休刊します。ご了承ください。8、9日のテレビ番組は16、17面、ラジオ番組・番組解説は15、18面に掲載しました。

特定秘密保護法

情報統制懸念与党も

国会にも監視組織

政府・与党は7日、国家機密の漏えいに厳罰を科す特定秘密保護法の成立を受け、恣意的な秘密指定がないかをチェックする監視部門の整備に着手した。政府は国会審議を通じ、個々の秘密を検証・監察する「情報保全監察室」（仮称）、事務次官級の「保全監視委員会」（同）を設置する方針を表明。しかし、ともに政府内の組織にとどまり、官僚による情報隠蔽を防ぐ独立性は乏しい。自民党は議員立法で、特定秘密の内容を監視する組織を国会に設置する方向で検討している。

（3面にクローズアップ、社会面に関連記事）

自民、公明両党と日本維新の会、みんなの党の4党は特定秘密保護法の修正協議で、同法付則9条に「独立した公正な立場で検証、監察する新機関」の検討を加えた。菅義偉官房長官は5日の参院国家安全保障特別委員会で、内閣府に20人規模の情報保全監察室を新設すると表明。しかし、内閣府設置法の範囲で設置される監察室には独立性がなく、「官僚による身内のチェックに過ぎない」との懸念が浮上している。

4党の実務者協議にあった自民党の中谷元・元防衛庁長官は7日のTBS番組で、情報保全監察室と国会でのチェック機関について「官僚の情報独占は放っておけない」と強調。今後1年以内の秘密保護法の施行までに監察室を設置する考えを強調。参院特別委の理事を務めた民主党の福山哲郎元官房副長官も「知る権利や取材の自由がどれだけ守られるのか、監視しなければいけない」と述べた。

一方、自民党の石破茂幹事長は6日夜の法成立後、国会が政府から特定秘密の提供を受けるルール整備について「早急に議論し、法案にすることが急務だ。党政調に作業を指示した」と記者団に表明。特定秘密の指定状況など運用状況を監視するため、議員立法で国会法の改正などを目指す考えを示した。

特定秘密保護法では国会が求め、行政機関の長が支障がないと判断した場合、「特定秘密を提供する」と規定している。審議内容を公開しない「秘密会」を義務付け、秘密を漏らした国会議員には最高懲役5年を科す。しかし、国会の監視機関や情報漏えいの防止策は未整備で、同法は付則で国会に対して情報保全措置を講じるよう求めている。

4党実務者合意は監視機関について「法施行までに結論を得る」と明記した。

ただ、実務者合意は監視機関設置の「検討」を求めたに過ぎない。合意文書に各党幹部は署名しておらず、自民党は与野党で協議した上で議員立法の共同提案も検討している。監視機関設置には、国会議員の秘密保持が前提となることから、「国権の最高機関である国会の論戦を行政が制約する」との懸念も残っている。

【影山哲也、高橋恵子】

傍聴席前には遮蔽板

平田被告公判 3死刑囚尋問

平田信被告

中川智正死刑囚
井上嘉浩死刑囚
林泰男死刑囚

東京地裁（斉藤啓昭裁判長）で開かれる元オウム真理教幹部、平田信被告（48）の裁判員裁判に証人として出廷する3死刑囚の尋問が、法廷に遮蔽板を設置して実施される見通しになった。傍聴席から見えないようにして、死刑囚の心情の安定を図る狙いがある。死刑囚の証人尋問は極めて異例で裁判員裁判では前例がなく、尋問方法が焦点となっていた。

初公判は来年1月16日。元教団幹部の中川智正（51）、井上嘉浩（43）、林（小池に改姓）泰男（55）の3死刑囚が1月下旬～2月上旬に1～2日間、証人出廷する。3死刑囚は周囲に「真実を明らかにする」と話しており、1連のオウ

法廷のイメージ
裁判官と裁判員
証

再結成へ長い道のり

ストーリー ―― 44年ぶり ザ・タイガース

「頑張りましょう」。年長のタローのかけ声で円陣を組み、5人は手を重ねた。「よっしゃ！」。ステージに駆け出す。1万3000人が待ち構える観客席は歓声に揺れた。

1960年代後半に音楽界を席巻したグループサウンズブーム。その頂点に立ったのが67年にデビューしたザ・タイガースだった。わずか4年で解散した。日本武道館は日本人初の単独公演を実現させ、最後のコンサートが開かれた会場。メンバーにとっても「特別な場所」だった。

「もう一度、オリジナルメンバーのタイガースで歌いたい。その夢があるからこそ、今まで走ってこられた」。沢田研二さん(65)＝ジュリー＝は、「再結成」の道筋を模索してきた。長い道のりだった、と思う。ソロになってからもフロントランナーだった男にしてはいささか感傷的なもの言いだった。

81年には沢田さん、加橋かつみさん(65)＝トッポ、岸部一徳さん(66)＝サリー、森本太郎さん(67)＝タロー、後に加入した岸部四郎さん(64)の5人が集まった。だが、沢田さんは当時、「再結成」と言わず「同窓会」と呼んだ。ザ・タイガース時代、ジュリーと人気を二分した瞳みのるさん(67)＝ピー＝がいなかったからだ。瞳さんはメンバーとの連絡を絶っていた。かたくなだった。

ピーがいなければ「完全復活」はならない――。沢田さんはピーを呼び戻すため「ある行動」に出る。それはジュリーのイメージとは程遠いものだった。

「復活への道のり」は今から5年ほど前の居酒屋で始まった。

4面につづく

沢田研二さん（右から3人目）の呼びかけで、ザ・タイガースのハーモニーがよみがえった＝東京・日本武道館で、須賀川理撮影